

令和6年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

開催日時		令和6年9月25日(水)	開会 15:00 閉会 17:00
開催場所		市庁舎4階 401会議室	
出席者	構成員	小浜市長 杉本 和範 小浜市教育委員会 教育長 窪田 光宏 同職務代理者 上田 俊彦 委員 村上 郁子 委員 桂田理津子 委員 坂下 貴洋	
	事務局	教育部長 谷 義幸 教育総務課長 畑田 康広 生涯学習スポーツ課長 日比野 伸彦 未来創造課長 芝 繁和 教育総務課 GL 松宮 克行、井上 恵理 生涯学習スポーツ課 GL 赤崎 泰文、大山 孝幸、田中 勝雄、竹内 桂子	
<p>1 開会</p> <p>事務局 ただ今から令和6年度第1回小浜市総合教育会議を開会します。 議長につきましては、本会議の設置者であります杉本市長にお願いいたします。</p> <p>市長 まず、開会にあたりまして一言挨拶させていただきます。 本日は、総合教育会議を招集させていただきましたところ、教育委員の皆様には公私ご多忙の中お集まりいただき、ありがとうございます。 日頃は、本市教育行政の推進に多大なご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。 さて、本日は令和6年度第1回総合教育会議として、本市教育行政の政策的課題のうち、3つの課題について協議することとなっています。 一つ目は、「学校給食費の無償化と地場産食材の使用拡大」について、二つ目は、「学校DXの推進」について、三つ目は、「市民体育館の空調設備」について、でございます。協議内容につきましては、市教委の考えがある中で、課題解決に向け、共通理解を図りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。 本日は、教育委員の皆様と活発に意見を交わし、本市の教育行政がより良いものとなるよう努めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。</p> <p>2 議事</p> <p>事務局 資料「教育委員会における政策的課題事項」のとおり、現在、教育委員会として10項目の重要課題がございます。本日は、より重要度・緊急度の高い3項目の協議をお願いいたします。</p>			

(1) 学校給食費の無償化と地場産食材の使用拡大について

<教育総務課説明>

坂下委員 学校給食費の無償化は、未来を担っていく世代を現役世代みんなで育てていこうという主旨かと思いますが、今後、様々な課題について我々も市民の皆さんに説明し理解や協力をいただくにあたり、共通理解を図っておくことが重要だと考えています。

そういった観点から、学校給食費の無償化のメリットや意義・目的について市長のお考えを改めて教えていただき、共有させていただければと思います。

市長 私自身が考える学校給食費の無償化の目的は、食のまちづくりを進めてきた小浜市の校区内型地場産学校給食を継続し充実させていきたい、というところです。

その中で、子どもたちが食べる学校給食の食材費を各家庭の負担ではなく市が責任を持って負担することで、物価変動などの影響を受けることなく地場産食材を使用した学校給食を実施し、給食を通して子どもたちが地域について学び、理解を深める一食にすることが、小浜ならではの食育だと思っています。一概に全国的に無償化の波があるから進めるのではなく、しっかりとこの地域で生産される食材を地域で食べられる仕組みに戻していきたいと考えています。

これは市教委と学校だけで解決できる課題ではありませんので、学校と生産者とを繋ぐために、例えば農政課など様々な関係部署や機関と手を組む必要があると考えています。

また、地域の食材をしっかりと使うことによって、生産者を支えていくことができると考えています。学校給食費を市が負担するとともに、生産者側の後継者不足や鳥獣による被害といった課題についても政策的に支援しながら、野菜などの食材をしっかりと供給できる体制を作ることは、地域の産業を支えていくという大きな政策とも関連すると思っておりますので、小浜市が実施する学校給食費の無償化は、地域の産業と生産者も守っていける仕組みにしたいと考えています。

上田職務代理者 学校給食費の無償化は保護者にとって大変ありがたいことであると思いますが、これまで小浜市が取り組んできた自校調理方式による学校給食の継続については、市長はどのようなお考えをお持ちでしょうか。

市長 学校内で作られた給食を食べることができるという環境は大変貴重だと思っていますので、この形は守っていきたくて考えています。学校ごとに設置されている調理施設の老朽化も課題になってきていますので、今後の学校の統廃合といった課題にも繋がってき

ますが、私自身は自校方式という形を維持しながら、無償化を進めたいと考えています。

上田職務代理者 学校給食費の無償化にあたっては財源の確保が大きな課題であると思いますが、現時点での市長のお考えを少しでもお聞かせいただければありがたいです。

市長 資料には今年度の各学校の給食費から試算した金額が示されていますが、地場産食材を公費でしっかり購入していくことや、今後の物価高騰の影響なども考慮すると、もっと大きな金額が必要になると考えています。その財源の確保に関しては、私が政策の根幹として挙げている「稼ぐ」仕組みの確立が必要と考えています。また、ふるさと納税についても、恒久的な財源ではないという視点もありますが、しっかりと市の財源になっていくような仕組みにしなければならないと考えています。

また、来年度予算以降、市の事業全体的を見直して行財政運営を行っていきたいと思います。

教育長 自校方式による地場産学校給食を堅持していく中で、食のまちづくりを根幹としたアドバンテージのある学校給食を提供していきたいという市長のお言葉は、非常に心強く感じました。ただ、本市の教育行政において様々な重要課題がある中で、何を優先するのかという議論も必要だと思います。

今後、市長の公約を実現していく上で我々教育委員会にも保護者をはじめ市民の皆さんへの説明責任がありますので、年間1億円以上の財源を確保してまで無償化をするメリットについて市長のお考えを再度お聞かせいただければと思います。

市長 私が掲げている政策の一つに子育て支援があります。子育て支援については様々な支援方法がある中で、何を支援するのかという優先順位を考えたときに、やはり1番に、食のまちづくりを進めている小浜市の学校における食育の柱である学校給食に子育て支援の予算をしっかりと充てたいと考えています。その上でまちづくりを進めることによって、食の大切さを改めて伝えていく必要があると思っています。学校給食に公費を充てて地場産食材を使用することによって、生産者や地域産業の支援にもつながりますので、学校給食費の無償化という一つの支援が、まちづくりの様々な部分に波及して地域内循環の効果を生み出すと考えています。

村上委員 無償化によって地場産学校給食を継続していただけることは、子どもたちにとっても保護者にとっても大変ありがたいと思いますし、大切なことだと思います。一方で、昨今の温暖化による気温の上昇など環境の変化に対応し、子どもたちが毎日通う学校が安

全で安心して学べる場所であるための施設や設備の整備も非常に重要であると思います。

市長 教育環境の整備については多くの課題に取り組んでいく必要がありますが、教育に関して国からの財源が少ないのも現状ですので、やはり課題に対応していくための自主財源を作っていかなければならない局面にあると感じています。

教育長 無償化の実現に向けては、まず公会計化が重要です。文部科学省が紹介している公会計化の先進事例において、自校方式による学校給食の公会計化を実施している自治体の事例はごく僅かです。自校方式を堅持して公会計化を実現するには、これら少数の自治体の好事例を参考にしていく必要があります。自校方式による公会計化という大きなハードルの先に、無償化を実施していくというハードルがあり、それらの課題を段階を踏んで乗り越えていくにあたり、必ず“そもそも論”に戻って議論する場面が出てくると思いますので、我々はしっかりと共通理解を図りながら進めていく必要があると思います。

市長 学校給食費の無償化がゴールではなく、この施策の柱は、食のまちづくりを進めてきた小浜の地場産学校給食の充実ですので、その目的から外れないように、何か課題があればそこに立ち返って皆さんと協議しながら進めていきたいと思っています。小浜ならではの、小浜だからこその形を最後まで目指していきたいと考えています。

(2) 学校DXの推進について

<教育総務課説明>

教育長 昨年度、学校DXの先進地である愛知県春日井市を訪問し、ぜひこれを小浜へ持ち帰って実践したいと考え、今年4月に学校DXを推進するための組織を立ち上げ取り組んでいます。取組期間はまだ半年ですが、良い成果が出てきています。

教育委員会としてお願いしたいのは、説明の中で課題として挙がっていた、子どもたちがストレスフリーで端末を使うことができる環境整備です。例えば、全校児童生徒が一斉に端末を使用した時にハングアップしてしまう。それを何とか解決していかないといけません。子どもたちが自由に端末を使いこなす中で学びを深める、その入り口の部分でつまづいてしまわないようなネットワークの整備が必要です。端末自体も更新していかなければなりませんので、その財源確保も必要です。加えて、今後はデジタル教科書や教材が紙媒体のものに代わって更に増えてくると思います。

教育委員会としては、端末やネットワーク等のハード面で子どもたちの学習に支障が出

ないような環境整備によって、学校支援を行っていきたいと考えています。

市長 例えば、ネットワークの回線速度の状況は、ある程度調査結果は出ているのでしょうか。

事務局 昨年度、回線速度を測るアプリを使って中学校で調査したところ、推奨されている速度の半分程度でした。今後、中学校の学力調査を端末を使用して一斉に受けた場合、今の状況では試験中に回線が固まってしまう可能性が高いと思います。

上田職務代理者 学校間格差が課題として挙げられていましたが、事務局としては、今後この格差を解消していく対策について何か考えを持っているのでしょうか。

事務局 格差を解消する対策のひとつに、端末の汎用アプリであるチャット機能の活用があります。今年度、各校の教頭を中心に立ち上げたDX推進本部の2つの部会（校務部会、研修部会）の中で活用が進んでいくようにと考えています。

例えば、ちょうど今月、教職員の校務用端末が更新され新しい端末が配付されましたが、一部のシステムが上手く作動しないという事案がありました。このことについて、単に学校と教育委員会事務局でやり取りするのではなく、チャット機能を使って学校間で状況を共有し、解決策を出し合って不具合を解消することができました。このようにチャット機能を活用して情報を共有する方法で、格差を解消することを考えています。

上田職務代理者 教員間でも格差があると思いますが、対策として考えられることはありますか。

事務局 今年度、小浜市は国のリーディングDXスクール事業に参加しています。指定校になっている2校にはデジタルツールが苦手な先生もおられますが、DXを進めてくださっています。2学期には授業が公開されますので、是非とも教育委員の皆さんにも参観いただきたいと思います。授業づくりに長けたベテランの先生方がICTをうまく活用すると、本当に素晴らしい授業になります。そういった先生をピックアップしながら広げていく方法も一つだと思います。若手の先生には、そういったベテランの先生から学んでもらい、DXが当たり前という形で進めていけるとよいと考えています。

教育長 DX以前の授業で培われた教員の資質能力は非常に大事です。それがないと、いくらICTを活用したところで、ただICTを使っただけになってしまいます。ICTの活用につ

いて全国的に最も多いのは、まだまだ“教師が、教えるための道具として ICT を活用している”というものです。しかし、小浜市が目指しているのは、「子どもが、自ら学んでいくための道具として ICT を活用する」というものです。子どもたちが自分で学んでいけるようにしなければ何も意味がないという思いで取り組んでいますので、ベテランの先生が持っている授業技術と、若手の教員が持っている ICT の知識がうまく融合して、更なる事業改善に繋がっていくとよいと思っています。

市長 学校 DX の推進は、これからの多様な教育に欠かせないと思います。私もリーディング DX スクールの公開授業を観に行きたいと思います。

(3) 市民体育館の空調設備について

〈生涯学習スポーツ課説明〉

坂下委員 大事なのは利用者の活動であり、施設を安全に使っていただけるということが基本的だと思います。市民体育館は災害時の避難所にもなっていますので、早急に進めていかないといけないと思います。また、学校施設や文化会館なども老朽化が進んでおり、実際に何か物が落ちてきて危ないといったことが起きてきています。優先順位をつけることも難しいかもしれませんが、ぜひ計画的に進めていっていただきたいと思います。

市長 特に夏場は熱中症の危険を伴います。熱中症によって後遺症が残ってしまうというケースもありますので、ぜひ取り組む必要があると考えています。設備の導入にかかる費用に加えて、ランニングコストがかかりますので、どういった機材を入れていくかということを検討していく必要がありますし、空調設備を整備した後は、利用者側に空調の使用料を負担していただくことも必要だと思っています。

上田職務代理者 概算でどれくらいの費用がかかるのか、見積り等はとられていますか。

事務局 体育館で一般的なエアコンをアリーナにのみ設置した場合で、2億2～3千万円かかるといわれています。現在、他の自治体の様々な事例を研究しているところです。

上田職務代理者 インターネットで調べますと、いくつかの方法があるようですので、参考にさせていただくとよいと思います。

事務局 全ての室内スポーツが市民体育館を利用でき、涼しい環境で安全に競技ができる方策、かつ、少しでも安価な方法を検討していきたいと考えています。

桂田委員 学校施設や社会教育施設の老朽化対策として、目先は改修し維持していく必要がありますが、その先は新しく建て直していかなければならないと思います。

市長 もちろんそういった課題を抱えているという現状は、皆さんの認識のとおりです。

他の自治体では、公共施設において民間の力を借りている様々な事例があり、例えば、企業側のネーミングがついている体育施設などもあります。小浜市が民間の力をお借りするには、地域がもっと活性化して投資効果のあるまちだと思ってもらえる必要があります。ちょうどこれから新幹線の駅ができてくるという新しい局面を迎えますので、特色のあるまちづくりによって企業に投資してもらえるようなまちにしていかなければならないと考えています。

教育長 これまでは、学校施設の中で民間活力を生かすということはなかなか考えにくいことでしたが、これからはそういったことも考えていく積極的な発想が大事になってくると思います。

3 その他

教育長 本日の議題は3項目でしたが、教育行政の政策的課題を一覧にまとめてありますので、今後の総合教育会議で順次取り上げていただきたいと思います。また、定例の教育委員会の中でも協議できればと考えています。

4 閉会

事務局 閉会にあたりまして、市長からご挨拶をお願いします。

市長 委員の皆様には長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。

私にとって初めての総合教育会議でしたが、それぞれの議題において、一番大事にしなければならない点、教育上最も守らなければならないことは何か、ということを中心に色々な意見を出していただき、大変建設的な会議であったと思いますし、正直時間が足りないくらいの議論であったと思います。今後も引き続き、皆さんの周りにおられる市民一人一人のことを思い浮かべながら議論を交わし、市政全体として子どもたちの未来のために力を注いでいかなければならないと改めて思った次第です。

それでは、これもちまして、令和6年度第1回小浜市総合教育会議を終了いたします。